

国際理論物理学組織委員会
素粒子専門部会第1回会合記事

| | |
|---|-----|
| 記 | 申 |
| 題 | 素1. |

日 時 : 1952 年 10 月 3 日 / 夕時 - 21 時
場 所 : 京大湯川記念館
出席者 : 藤本、伏見、早川、井上、小林、坂田、武谷、谷川、
朝永、梅沢、
特別出席者 : 内山、福田、
(事務局、吉田)

配布資料

| | |
|------------|---|
| 招 返 | 3 |
| 1952.10.23 | |

— 議 事 —

第1、国内準備体制

1. 討議の部門

Session において日本側の講演すべき大体の題目及び各題目
につき中心となる人を取りあえず次の通り決定した。

- (1) 場の理論 { (a) 相互作用の構造 (坂田)
(b) 中間結合 (朝永)
(c) 非局所場 (湯川、井上)
(d) 素粒子の相互変換 (福田博)
(V 粒子)

- (2) 核 反 応 (藤本)
- (3) 核 力 (武谷)
- (4) β 線 (中村)
- (5) 宇宙線理論 (主として空気シャワー) (早川)
- (6) π -中間子 (谷川)

2. 班の組織

| | |
|----|----|
| 記 | 事 |
| 組委 | 系ノ |

上の各題目についてそれぞれ班を組織し、各班毎に発表の準備をする。各班の構成はノノ月ノ日の素粒子論の *Symposium* で有志をのつて大体決定し、文通等の連絡方法によつて下準備を進め、来年2月名古屋で開催予定の素粒子論の *Symposium* で正式に班を組織して本確的準備に取りかかり、研究者グループと発表者との間に十分の疎通を計る必要があれば各班が合宿して発表の策を練ることもあるであろう。合宿の場所として湯川記念館を予定し、これが決定した場合は、湯川記念館の使用方について学術会議から正式に依頼状を出す。

3. 発表予稿の締切

なるべく遅く、一応6月末とし、これに間に合った分は謄写印刷して参加者に郵送配布する。間に合わなかったものは予稿を当日配布する。

4. オニ次プログラム及び *circular* の発送なるべくおそく、例えは6月末頃。

第2. 会場関係

1. 会場設備

- (1) *Informal meeting* のための別室を用意する。多く立ったまま行われるから、特に椅子の用意を必要としない。
- (2) マイクロフォンの数及び備える箇所については不備のないよう十分に考慮する。(例えば、黒板に向いながら話す場合を考えて黒板側にも取り付ける)
- (3) テーブルコーナー、幻灯器の用意
- (4) 時間の経過を知らせる相図のベルは、手動式のそのより、時計仕掛けで、予め仕掛けておけば予定時間が経過すれば鳴る方式のものの方が確実である。

2. 日本人参加者の制限方法

| | |
|----|----|
| 記 | 事 |
| 組委 | 系ノ |

割当人員の半数は指名参加者として委員会が選定し、残り半数は無記名の券を各大学等に配布し、参加希望者同志の相談で自発的に調整して決めるようにする。兩種の券は座席は指定席とする。

3. *Informal gathering*

main session の論議の際付に問題になった点について、他の *main session* と平行に随時開く。

4. 昼食

昼の休憩時間をなるべく長くし、この時間も *informal gathering* に利用する。そのため、昼食は会場に出来るだけ近くですることが望ましく、庭に天幕を張つて食堂に当てる他、雨天の場合地下室の利用も考える。昼食はサンドイッチ位でよい。

5. 大阪会場

main session を一日又は半日阪大で開く提議が前地委員から出ているが、時間、設備等の点で難しい。*Symposium* を *main session* の会期外に大阪で開くのならば可能且つ有意義と考えられる。決定は組織委員会に委せる。

第3. 外国からの参加者

1. 座長の性格

儀礼的なものとし、招請者全員に万端なく当るよう配慮する。割当はオニ次プログラムを決定するとき考える。座長補佐は、日本人とし、座長と連絡を取りながら議事の進行等事務的な面を担当する。

2. オニ次招請者

Rosenfeld, Pauli の招請を希望する。前者は招請を辞退した *Dirac* の補欠として適任。(ニ次招請は旅費補助がつく場合

事務
用紙

| | |
|----|----|
| 記 | 事 |
| 組委 | 素ノ |

- はIUPAPとの事前了解を必要とする)
2. 各国々内委員会あての案内状
ソ連邦の Landau からは返争がないが、当人に直接手紙を出したからではないか、ソ連は IUPAP 加盟の国内委員会がないから、Academy あて案内状を出した方がよいのではないか。
 3. 外人の自薦、他薦の参加希望者
件別に委員会が本人の業績等を考慮して決定する。規律は日本人参加者(前出の2の2)の中の指名参加者選考規準と同格とし、会場の収容人員の制限から、此の種の外国人の参加によって日本人側参加数が圧縮されることも考慮する。
 4. 物性と共通の参加者
扱は物性専門部会に委せるが、講演議題について、事前に物性にかたよるような依頼をせぬよう申し入れること。
 5. 外国からの参加者の携行資料
外国からの参加者に付しては特にその国の最近の data に関する資料の携行を予め依頼し、講演に織り込まなくとも、informal gathering その他の機会に latest news の披露をしてもらうようにする。

第4、素粒子専門部会委員追加

次の各氏を委員に追加する。

- 中 村 誠 太郎
- 武 田 暁
- 山 口 嘉 夫
- 片 山 泰 久
- 大 塚 田 定 雄
- 町 田 茂
- 佐 藤 岩 男

| | |
|----|----|
| 記 | 事 |
| 組委 | 素ノ |

- 宮 沢 弘 坂
- 橋 田 信 之
- 内 山 意 雄
- 福 田 博

(7月22日の準備委で追加することが決定していたが、留学中のため依頼が保留になっていた。)

